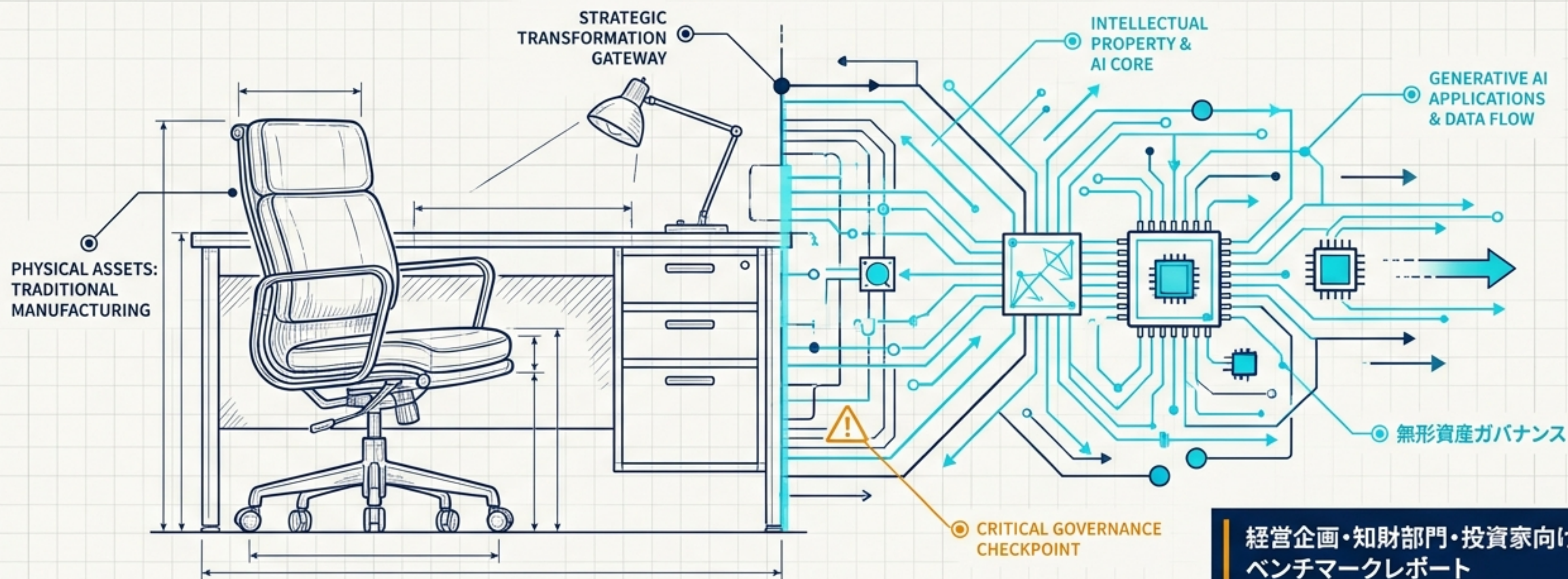
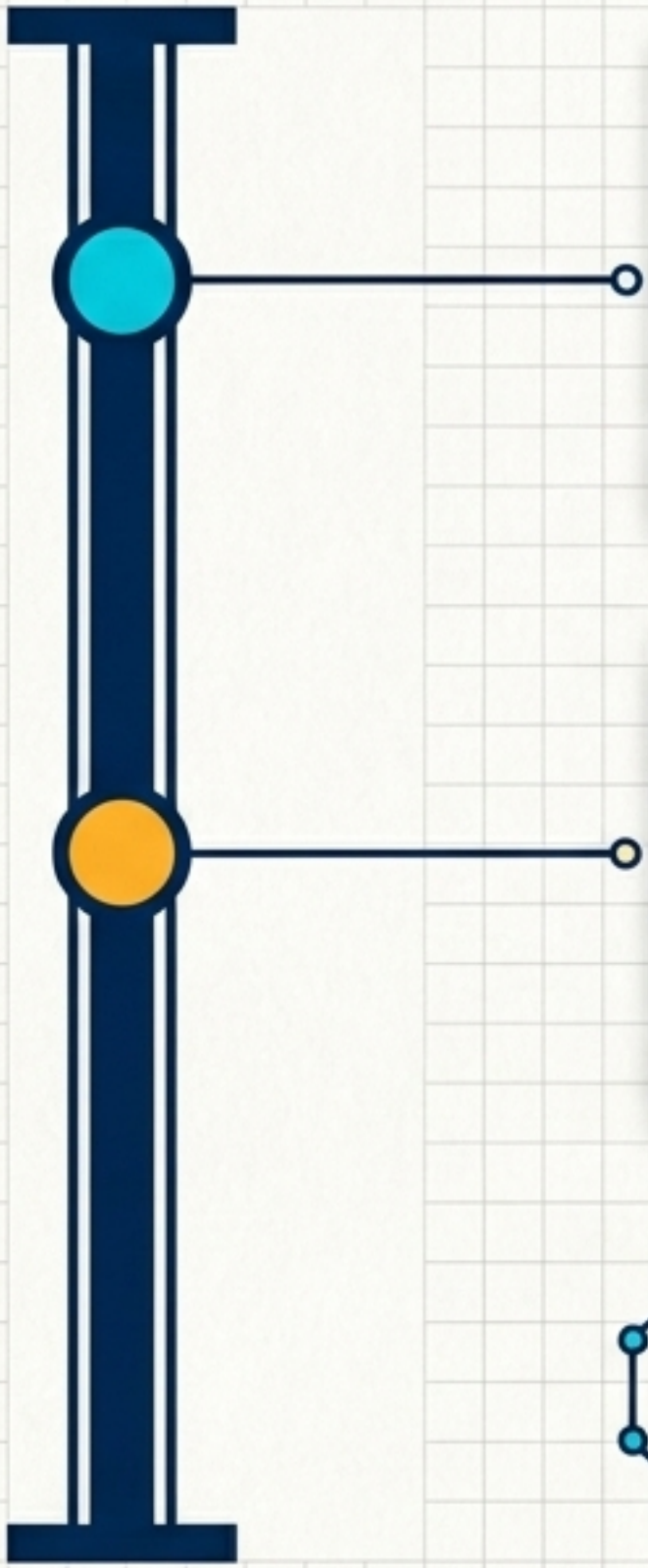


伝統的家具メーカーから「AI×知財カンパニー」への戦略解剖

イトーキの「知財・無形資産ガバナンス」と「生成AI活用」を解説する





2020年 特許庁「知財功労賞」
特許庁長官表彰(意匠)

初受賞

2026年2月 IPIAGPA「知財・無形資産ガバナンス表彰」
特別賞

「非財務価値の重視」と「データ活用」

Tech × Design based on PEOPLE

イトーキの無形資産の基盤

伝統的知財体制

イトーキの知財体制

役割

侵害防止

戦略的な権利取得による競争優位

部門
位置

法務部門配下

経営企画本部直下

活用
データ

自社・他社特許データ

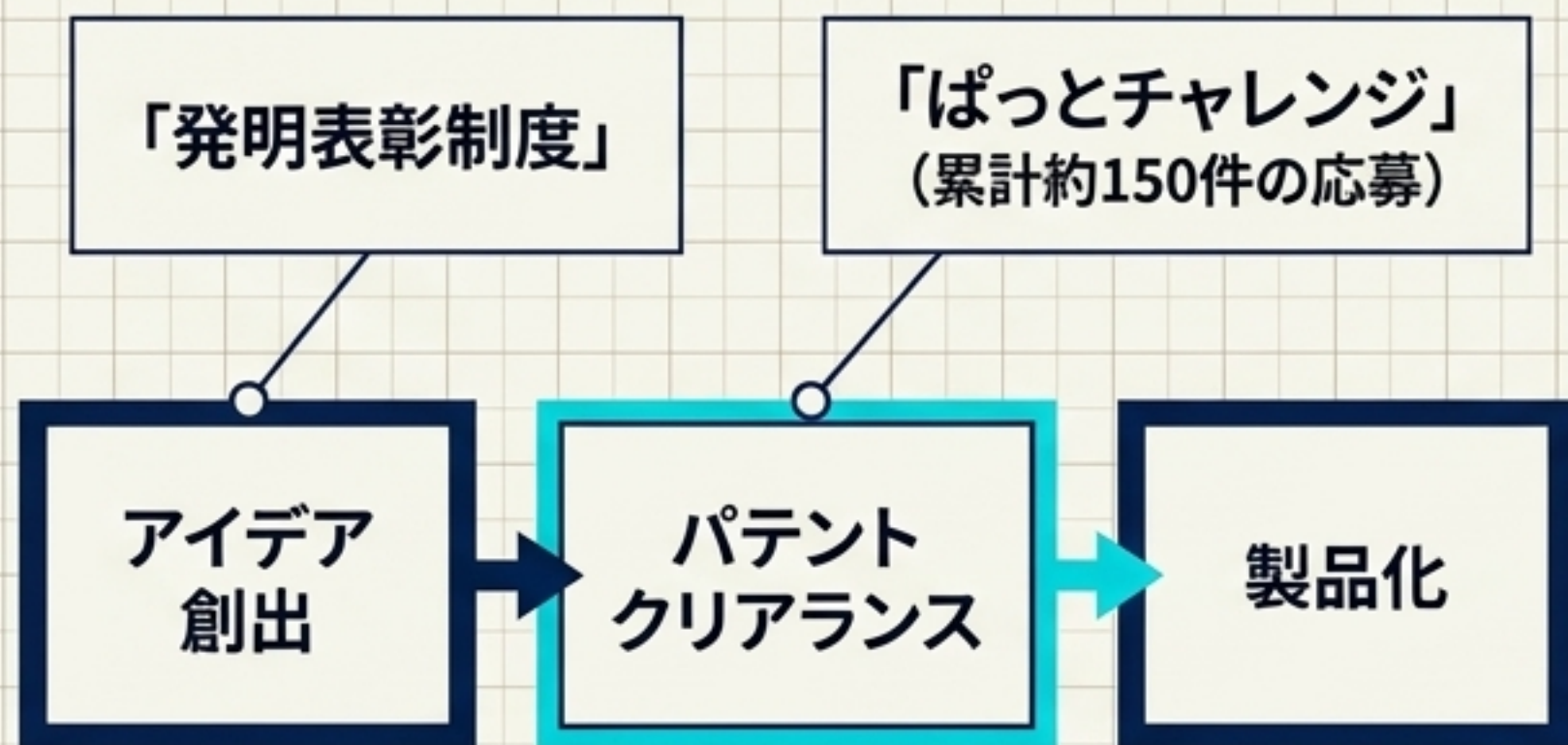
オフィス空間データ・行動ログ

ガバナンス
体制

管理主体

CAIO設置・AI戦略と連動

社内施策



Case: 仮眠ボックス「giraffenap」

目標15件に対し20件の特許出願を
ターゲット化

競争力指標

223% 成長

YK値 (特許競争力指標) 2020-2023
椅子分野国内1位



199件

FY24 新規意匠登録
内装意匠累計国内1位



CAIO新設(最高AI責任者)

2026年7月就任。AIガバナンス、
ルール策定、基盤整備を主導。

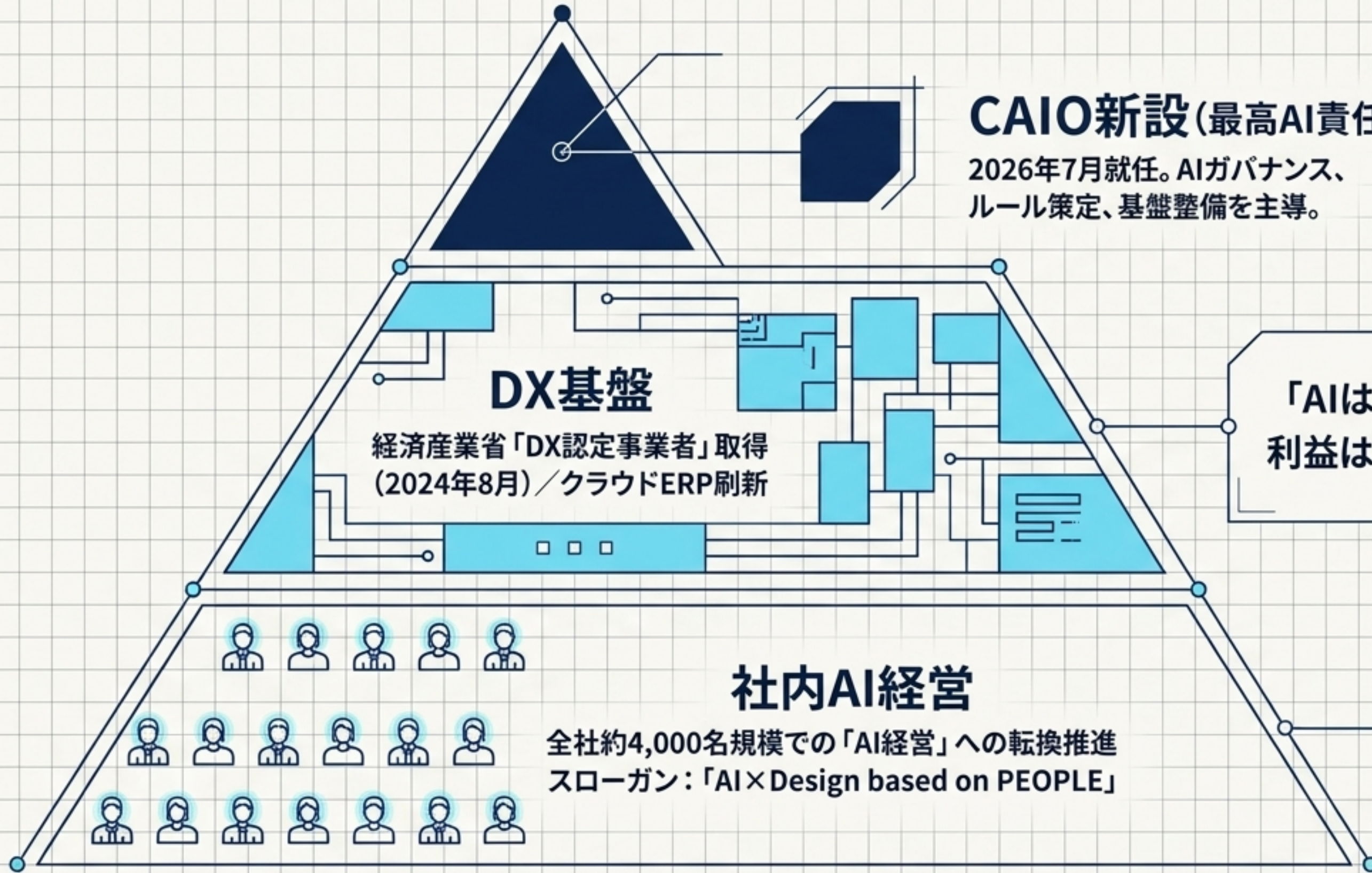
DX基盤

経済産業省「DX認定事業者」取得
(2024年8月)／クラウドERP刷新

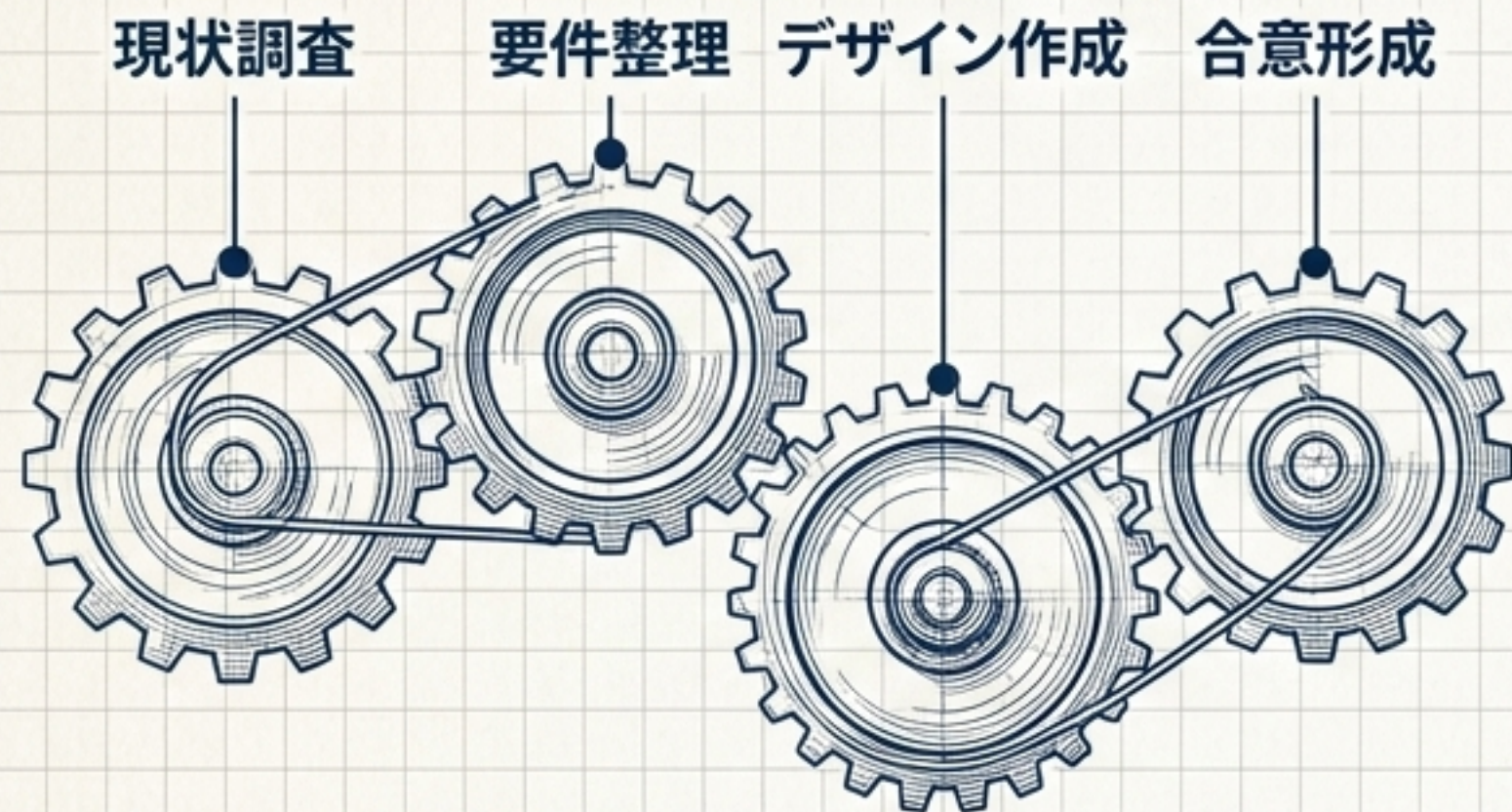
「AIは『時間を買う』もの。
利益は指数関数的に伸びる」

社内AI経営

全社約4,000名規模での「AI経営」への転換推進
スローガン:「AI×Design based on PEOPLE」



現状 (Before)



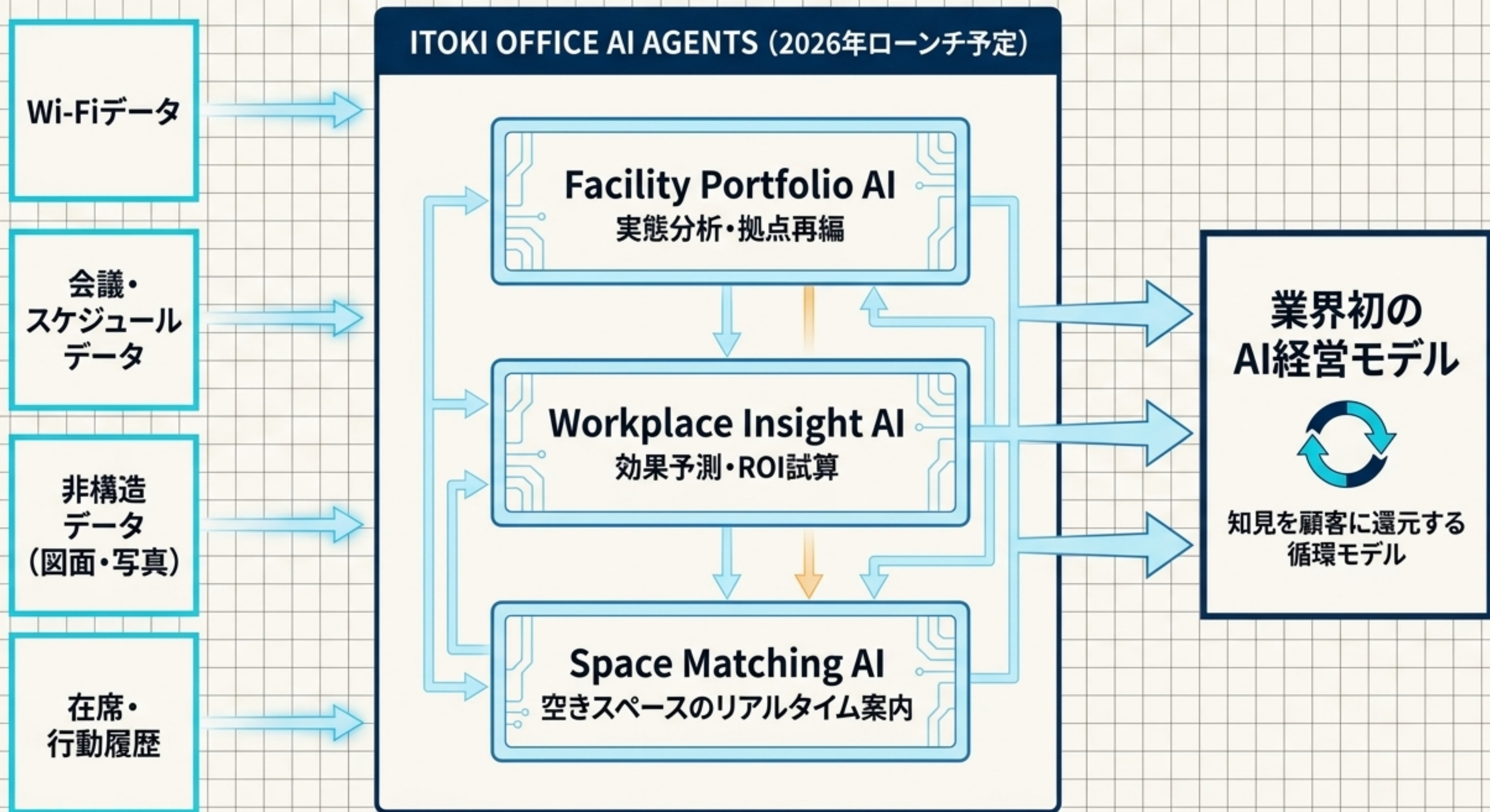
所要時間: 1カ月

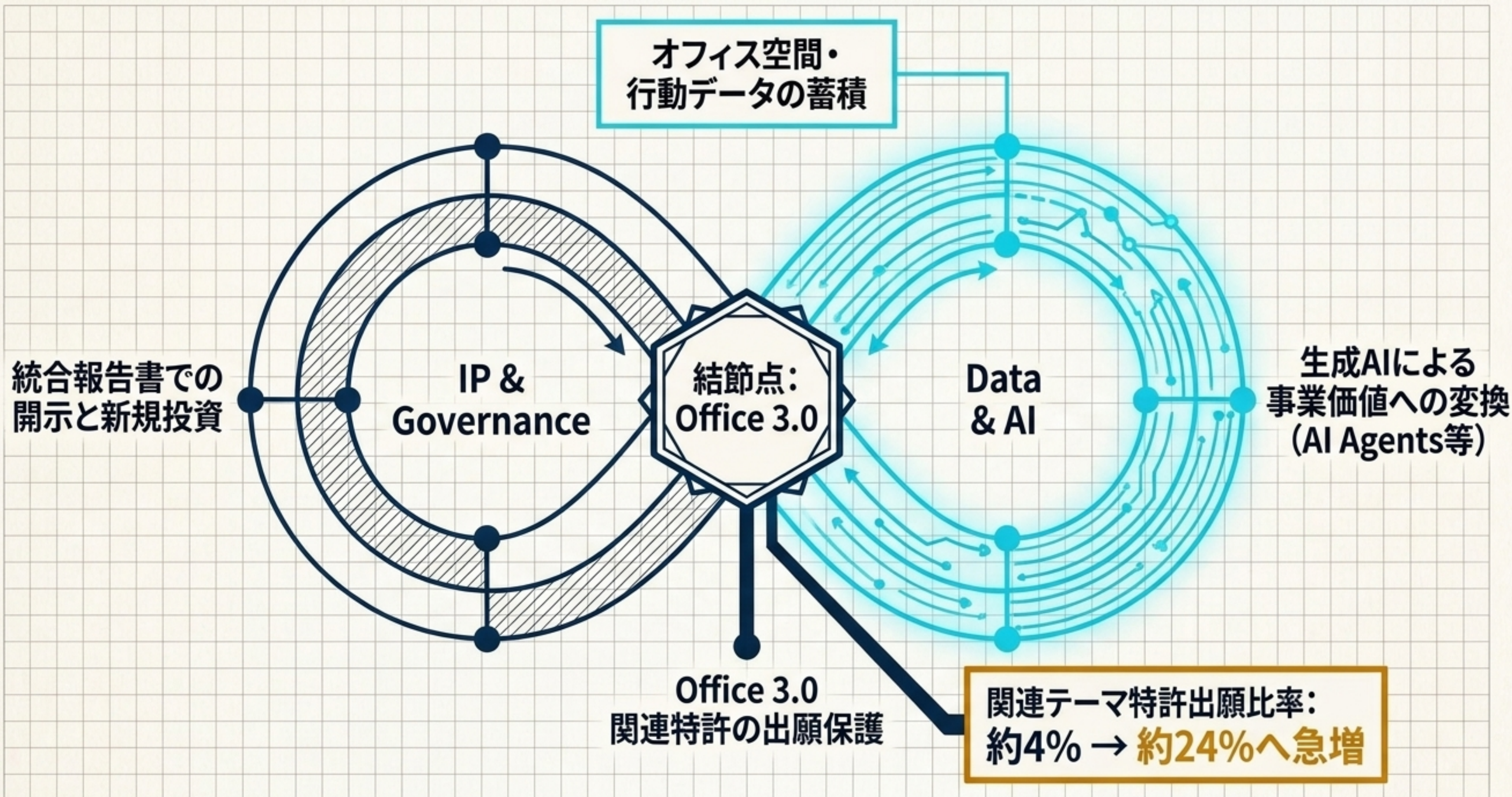
AI導入後 (After)

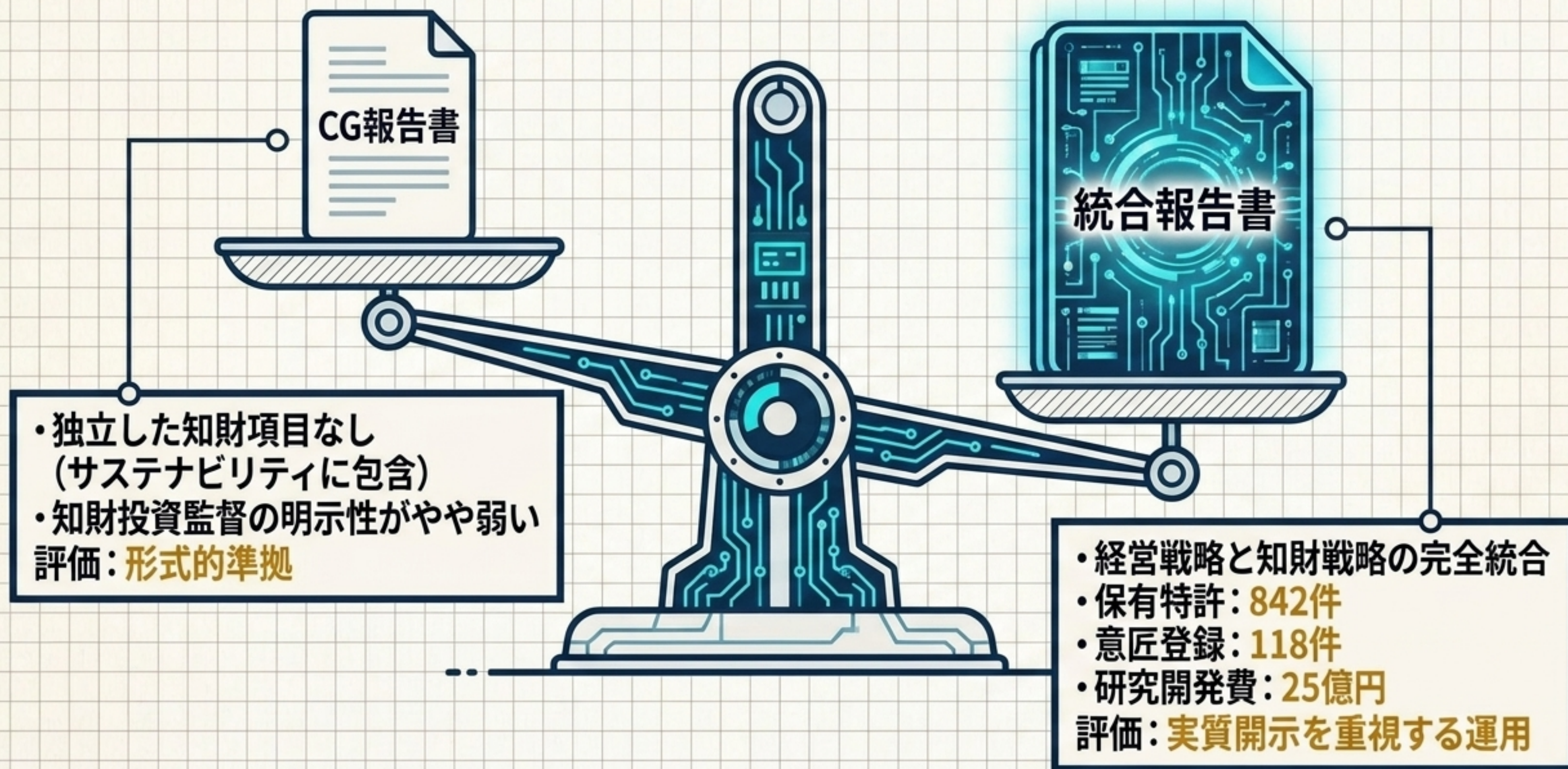


所要時間:
1時間

学習資産:
年間約1万件の
オフィスレイアウトデータ







分析上の留意点と客観的視座



数値の不一致

- 統合報告書では「意匠登録118件」と記載されているが、英語版知財ページでは「116件」と記載。集計基準（累計/単年、特許/意匠）による差異が存在するため精査が必要。



将来予定と事実の区別

- 「Office AI AGENTS」や「1カ月→1時間」のレイアウト生成は、現時点での目標・将来予定（2026年）であり、完了した歴史的事実ではない。「業界初」も自社調査に基づく表現である点に留意。



アクセス制限

- 統合報告書の知財戦略本編（P47-49）の直接PDFや、J-PlatPat等を用いた一次的な特許出願動向のデータベース解析は本調査のスコープ外である。



Step 1: 知財部門の役割再定義とKPI化

「守り」から「攻め」へシフトする。Office 3.0関連の特許出願比率（4%→24%）や、YK値などの定量的な競争力指標をベンチマークとして設定し、知財部門の役割を経営戦略と連動させる。



Step 2: AIと知財の一体設計体制の構築

データをサイロ化させない。知財ガバナンスと並行して「CAIO（最高AI責任者）」を設置し、全社的なAI展開の前に、社内ルールやインフラ基盤を整備する体制を構築する。



Step 3: 実質的な開示媒体の選定

自社のCG報告書と統合報告書の役割分担を監査する。CG報告書で知財投資の記載が弱い場合は、統合報告書を活用して「技術・デザイン・人材」の統合ストーリーを実質的に開示する。